



平成31年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年8月10日

上場会社名 株式会社 オーシャンシステム
 コード番号 3096 URL <http://www.ocean-system.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 樋口 勝人

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員社長室長 (氏名) 山田 秀樹

TEL 0256-33-3987

四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	14,170	10.7	337	21.2	358	21.2	211	12.3
30年3月期第1四半期	12,803	2.7	278	1.5	296	3.8	188	3.3

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 203百万円 (4.9%) 30年3月期第1四半期 214百万円 (41.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	21.46	
30年3月期第1四半期	19.10	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第1四半期	16,462	6,691	40.6	679.72
30年3月期	16,772	6,543	39.0	664.72

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 6,691百万円 30年3月期 6,543百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		6.00		6.00	12.00
31年3月期					
31年3月期(予想)		6.00		6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	28,000	10.5	490	15.0	510	9.8	300	8.9	30.48
通期	57,500	10.6	1,150	26.3	1,200	21.3	610	21.2	61.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期1Q	10,833,000 株	30年3月期	10,833,000 株
期末自己株式数	31年3月期1Q	989,121 株	30年3月期	989,121 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期1Q	9,843,879 株	30年3月期1Q	9,843,879 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益は引き続き堅調で、景気全般は回復基調が持続しているものの、米国トランプ政権の通商保護主義への傾斜により景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

食品業界におきましても、人材確保と人件費の上昇がより大きな経営課題となっており、ネット販売の需要拡大や同業の競合店だけではなく異業種からの参入により競争が激化するなど、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社グループはお客様第一を念頭に置き、付加価値のある商品提供に注力し、食の安全・安心への取り組みを継続して強化することにより企業価値の向上に努めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は141億70百万円（前年同期比10.7%増）、営業利益は3億37百万円（前年同期比21.2%増）、経常利益は3億58百万円（前年同期比21.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億11百万円（前年同期比12.3%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(スーパーマーケット事業)

スーパーマーケット事業につきましては、鮮魚等の対面販売や業務用食品を取扱っている当社の特色を活かした販売強化に努めました。また、お買い上げ代金をお客様自らが機械で精算するセミセルフレジを新潟中央インター店に導入し、レジ対応の迅速化によるお客様の利便性の向上に努めました。これによりセミセルフレジを導入した店舗は10店舗中9店舗となりました。

しかしながら、一部店舗では競合店の進出により競争が激化したこと、ならびに社会保険適用拡大を始めとする制度改変の影響から人件費が増加し、売上高・セグメント利益ともに前年同期に比べ減少しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント売上高は56億65百万円（前年同期比0.9%減）、セグメント利益は1億15百万円（前年同期比21.0%減）となりました。

(業務スーパー事業)

業務スーパー事業につきましては、4月に富山県で4店舗目となる「業務スーパー砺波店」（富山県砺波市）をオープンし、営業エリアの拡大を図りました。

また、飲食店へのポスティング活動や折り込みチラシなど新規顧客の開拓を継続して行ったことと、フランチャイザーである㈱神戸物産による「春のお客様大感謝セール」のテレビCMを全国規模で行った効果もあり、既存店の売上高は前年同期に比べ増加いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント売上高は51億86百万円（前年同期比35.1%増）、セグメント利益は1億47百万円（前年同期比31.1%増）となりました。

(弁当給食事業)

弁当給食事業につきましては、企業内食堂の運営受託を行っている部門において、学校給食等の受託施設が増えたことで、同部門の売上高は増加いたしました。また、昨年6月に北海道地区において同業他社から顧客を受け入れたこともあり、売上高は前年同期に比べ増加いたしました。

前年度に引き続きコストに見合った適正な販売価格の維持・形成に取り組んだことにより平日の平均販売単価は前年同期末を上回りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント売上高は19億71百万円（前年同期比3.8%増）、セグメント利益は1億8百万円（前年同期比15.7%増）となりました。

(食材宅配事業)

食材宅配事業につきましては、ケアハウスや福祉施設などへの食材販売を行う施設数が増加したことと、当社独自の企画販売、及び主力商品である一般家庭向け「すまいるごはん」の食材セット販売の新規顧客獲得のためのキャンペーンなどを行ったことにより、販売数は前年同期を若干上回り、売上高は増加いたしました。

また、野菜などの仕入価格が比較的安定して推移したことで、売上総利益も前年同期を上回りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント売上高は11億36百万円(前年同期比0.9%増)、セグメント利益は95百万円(前年同期比66.2%増)となりました。

(旅館、その他事業)

旅館「海風亭 寺泊 日本海」につきましては、新聞広告等の宣伝効果もあり、一般の宿泊者数は大幅に増加したものの、旅行代理店からの送客による昼食利用、及び一般のお客様によるレストラン利用者数は前年同期に比べ減少しました。

定食屋「米どころん」につきましては、看板商品である「味噌わらじかつ定食」が販売数を伸ばし、また、一部店舗において居酒屋色を強く打ち出すなど、店舗ごとに特色を出し好評は得ているものの、客数は前年には及びませんでした。また、依然として一部店舗における人件費の削減とビュッフェ形式の原価管理が課題となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント売上高は2億9百万円(前年同期比4.3%減)、セグメント損失は20百万円(前年同期はセグメント損失31百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億10百万円減少し、164億62百万円となりました。これは主に、棚卸商品が1億49百万円増加したものの、現金及び預金が4億32百万円減少したこと等によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ4億57百万円減少し、97億71百万円となりました。これは主に、長期借入金1億61百万円、賞与引当金1億15百万円、短期借入金74百万円及び未払法人税等が30百万円減少したこと等によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億47百万円増加し、66億91百万円となりました。これは主に、利益剰余金が1億54百万円増加したこと等によるものです。この結果、自己資本比率は1.6ポイント上昇し、40.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、実績と今後の見通しを勘案し、平成30年5月14日の「平成30年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,324,181	1,892,068
売掛金	1,153,092	1,159,509
商品	1,551,610	1,701,534
原材料及び貯蔵品	124,355	120,085
その他	432,843	551,568
貸倒引当金	△3,640	△2,277
流動資産合計	5,582,443	5,422,488
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,125,618	4,075,232
土地	3,478,042	3,478,042
その他（純額）	653,530	641,617
有形固定資産合計	8,257,191	8,194,892
無形固定資産		
のれん	323,287	305,858
その他	259,094	266,761
無形固定資産合計	582,382	572,620
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	114,950	115,656
その他	2,250,944	2,169,215
貸倒引当金	△15,383	△12,361
投資その他の資産合計	2,350,511	2,272,511
固定資産合計	11,190,085	11,040,024
資産合計	16,772,529	16,462,513
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,060,211	3,045,799
短期借入金	907,094	832,798
未払法人税等	111,547	80,944
賞与引当金	203,806	88,220
その他	1,670,362	1,738,286
流動負債合計	5,953,022	5,786,049
固定負債		
社債	600,000	600,000
長期借入金	2,313,080	2,151,740
リース債務	140,853	121,292
退職給付に係る負債	15,063	15,205
役員退職慰労引当金	140,310	116,370
資産除去債務	631,230	561,190
その他	435,519	419,592
固定負債合計	4,276,056	3,985,391
負債合計	10,229,079	9,771,441

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	801,710	801,710
資本剰余金	366,781	366,781
利益剰余金	6,013,879	6,168,765
自己株式	△751,653	△751,653
株主資本合計	6,430,718	6,585,603
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	106,581	100,807
退職給付に係る調整累計額	6,149	4,660
その他の包括利益累計額合計	112,731	105,467
純資産合計	6,543,449	6,691,071
負債純資産合計	16,772,529	16,462,513

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	12,803,036	14,170,539
売上原価	9,607,920	10,642,756
売上総利益	3,195,116	3,527,783
販売費及び一般管理費	2,916,375	3,190,054
営業利益	278,740	337,728
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	4,144	4,144
受取家賃	4,937	5,374
その他	14,494	20,718
営業外収益合計	23,577	30,238
営業外費用		
支払利息	4,196	5,039
その他	2,029	4,130
営業外費用合計	6,226	9,170
経常利益	296,092	358,796
特別利益		
固定資産売却益	—	200
受取保険金	—	4,445
特別利益合計	—	4,645
特別損失		
固定資産除却損	—	2,059
災害による損失	—	2,595
その他	—	127
特別損失合計	—	4,782
税金等調整前四半期純利益	296,092	358,660
法人税、住民税及び事業税	19,685	61,447
法人税等調整額	88,373	85,975
法人税等合計	108,058	147,422
四半期純利益	188,033	211,237
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	188,033	211,237

（四半期連結包括利益計算書）

（第1四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日）
四半期純利益	188,033	211,237
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28,351	△5,774
退職給付に係る調整額	△1,845	△1,488
その他の包括利益合計	26,506	△7,263
四半期包括利益	214,539	203,974
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	214,539	203,974
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	5,717,837	3,839,932	1,899,537	1,126,450	219,278	12,803,036	-	12,803,036
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	342	31	35,303	-	1,706	37,383	△37,383	-
計	5,718,180	3,839,964	1,934,840	1,126,450	220,984	12,840,419	△37,383	12,803,036
セグメント利益 又は損失(△)	146,147	112,482	93,625	57,311	△31,008	378,558	△99,818	278,740

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△99,818千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△99,972千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成30年4月1日至平成30年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	5,665,508	5,186,823	1,971,738	1,136,530	209,938	14,170,539	—	14,170,539
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	598	25	41,623	—	1,243	43,490	△43,490	—
計	5,666,107	5,186,848	2,013,361	1,136,530	211,182	14,214,030	△43,490	14,170,539
セグメント利益 又は損失（△）	115,442	147,479	108,316	95,279	△20,249	446,268	△108,539	337,728

(注) 1 セグメント利益又は損失（△）の調整額△108,539千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△108,700千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。